電子情報工学科 同窓会企画 「先輩からのメッセージ」

（社会で活躍する OB/OG から学生の皆さんの将来に向けた提言）

最近，理系でも文系並みに「就活」が早まり，冬から春にかけて様々なセミナー，会社説明会にどっぷりという学生が当たり前になってきました．しかしこれらの行事ばかりでは，必ずしも現場の実態が学生に届かないのでは？というわけで，このたび社会で活躍する本同窓会メンバーに大学にお越しいただき，貴重な社会体験，社会人の考え方，学生時代に大切な思い出などをお話しいただく講演会を企画しました．11～12 月に 4 回，合計 8 名の方々による，普通の就活では聞くことができない「本音」トークを講演順で以下にご紹介します．

大武章人さん（1969 年卒，NEC）「グローバルでの活躍を！」

パソコン，ビッグローブなど，パーソナル・ソリューションを担当する専務・大武さんから三つの提言．①「世界市場における日本の位置づけ」．パソコン・携帯で日本は世界の 5%というニッチ市場．世界シェア 5%以下は生き残れない！異文化コミュニケーションは必須．②「ツールとしての英語の重要性」．先端技術を発信する米国の情報は英語．生産基地のアジア諸国も共通語は英語．日本がグローバル化に一番遅れているかも．③「期待される技術者像」．以前は専門を深堀する I 字型と専門の近辺でも強い V 字型が期待された．今は融合領域から新技術が生まれる時代．「入社 10 年で 2 つの専門をもてるように！」

津田かほるさん（1990 年卒，NTT コミュニケーションズ）「NTT での 17 年間を振り返って」

今回の企画の紅一点，津田さん．自身の会社人生の紆余曲折を年表で紹介．個人も会社も様々に変化する中，希望とは違う局面でもポジティブに働き続けるための原動力はモチベーション力とコミュニケーション力！モチベーションを高めるにはワクワクする目標とそこまでのステップを具体的に考えるのが効果的だとか．コミュニケーションでは，自己表現以上に相手を理解し共感する力が大切とも．「就職は人生の大きな岐路．自分の将来像を具体的に考え，第一歩としてどこで何をやるのか，とことん考えて下さい．一生懸命考えた末の決断であれば，前向きに進めると思います！」

谷島昭一さん（1964 年卒，富士通（株））「ユニヴァーサルデザインによる製品開発－高齢者向け携帯電話機の開発事例」

「らくらくホン」を開発した谷島さん．高齢者や障害者が一般人と同じように扱える製品を目指すユニバーサルデザインについてのお話．大切なのは，高齢者のために何を考慮すると役立つかを決めること！感覚，記憶，注意力，処理能力などの低下を補うため，文字を拡大したり，見やすいフォントにする，通話時の周りの雑音を減らす，相手の声を自動録音する，などの機能を開発し，携帯に搭載されたとか．特に，相手の声をゆっくりにする機能には携帯に慣れた学生もびっくり．

冨士田誠之さん（1997 年卒，京大）「博士・ポスドク・助教・・・」

本学で博士課程まで進み，その後も研究を続ける冨士田さん．自ら開発した有機 EL 発光デバイスを片手に，学生時代から京大の助教という立場に至るまでのエピソードを語っていただきました．特に進学か就職かを悩んだ際の，刻々変化する自身の気持ちが印象的．「振り返ってみると，やはり学部時代の経験がベースになるので大切にしてほしい，研究室での学会参加・海外派遣が非常に刺激になった」とのこと．「研究」という好きなことが続けられる幸せを実感されているようです．

須永政孝さん（1977 年卒，冨士・フォイトハイドロ（株））「エネルギー産業と日独合弁会社の役員としての業務」

水力発電関連の会社で副社長の須永さん．「初めはエンジニア・研究者の卵として会社の業務を始めます．でも，役職が上がると技術者から管理者，経営者に自らを変えるように求められます．」というわけで，経営者の仕事の実態について伺いました．「企業は経営塾のような研修を提供してくれますが，本人の挑戦意欲も肝要！」また講演では，今後のエネルギー情勢や産業を検証し，水力エネルギーの有効活用が CO_2 問題の解決に有効なことを力説されました．

越山潤一さん（1999 年卒，ソニー（株））「楽しんでる？」

今回の企画では最若年の越山さんは，休日の若者のようなカジュアルなスタイルで登場．学生と対話しながら，自身の転職秘話を紹介．VLSI 設計を学んで外資系のテキサスインスツルメントに就職，「自分の意に沿った仕事だけでなく，クリーンルーム管理のような意に沿わない仕事もやれば面白くなり，後々のためになった！」その後，組織変更の際に密かに転職を決意，求人と自分のスキルがマッチングして現職へ．結局のところ，自分がやりたい仕事，楽しいと思える仕事に携われるのが最高の幸せ，とのこと．

福居文継さん（1979 年卒，北海道電力（株））「スーパーユーザー企業のシステム構築　－民間重要インフラ産業における情報通信－」

最も遠方から駆けつけていただいた福居さん．情報工学科（現学科の情報部分の前身）から同社の電力部門に入社し，水力発電所勤務など様々な部門を経て，現在は情報通信システム構築に携わっておられます．「情報システムに関して電力会社はユーザですが，最近はその基本計画，設計から運用・保守まで力を入れています．情報システムは企業経営に不可欠な要素となったことから，情報系の新入社員を多く採用しています」とのこと．異質と思われる分野が結びつく好例．

大森信行さん（1996 年卒，長野県工業技術総合センター）「企業と公設試で働いて」

大学院修士課程修了後に NTT の研究所に入社し，インターネット検索の Goo の開発という最先端の情報技術や SE の仕事に携わった大森さん．その後，長野県工業技術総合センターに転職し，製造業を支援する依頼試験や共同研究を行うという，聴衆もみな驚くような異業種への挑戦．さらに現在は，スキルアップを目指して本学の社会人ドクターコースに入学という様々な体験をしておられます．「就職される学生さんも，入社後に検討されてはいかがでしょうか？」という，大学にはありがたいお言葉．

講師の皆さんには素晴らしい講演をしていただき，深くお礼申し上げます．「よくある就職セミナーよりよっぽど参考になった，タメになった」と多くの学生から聞きました．惜しむらくは学生の平均数が 50 名程度にとどまったこと．もっと会場を埋めたかったというのが本音です．同時期に大学内では既に連日，セミナーや会社説明会が開かれていたため，多くの学生は企業人事担当の話に足が向いてしまったようです．これが現実かもしれませんが，今後の企画のやり方もちょっと考えなければなりません．ただ，企画者としての最大の楽しみ：講師の皆さんと懇親会は，大変有意義な意見交換の場となったことも付記させていただきます．（1985 年卒馬場俊彦（本学教員））